

# 繁殖管理で、ひと工夫

2009年5月13日

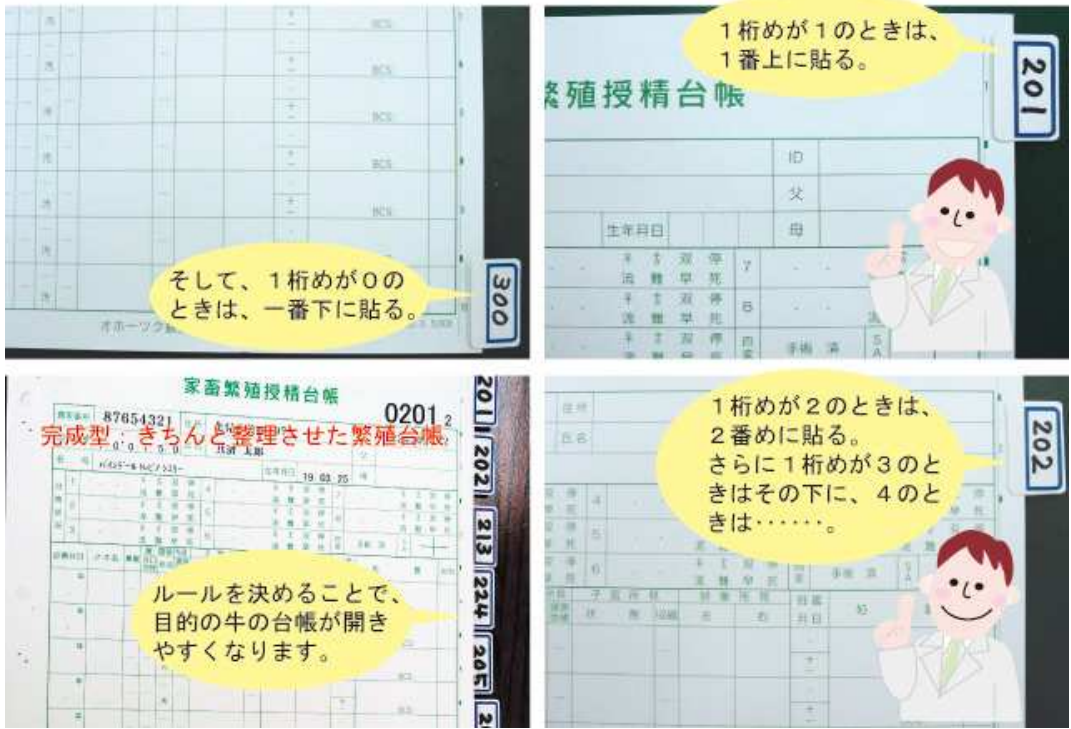
繁殖管理のゴール、一年一産のためには、「個々の牛がどのような泌乳ステージにいて、どういう状態で、これからどうなってほしい牛か」を正確に把握することが必要です。そのためには、まず日々の発情観察、合わせてそれを正確に記録することが重要です。さらにそれらの情報は、飼養管理に携わる人、たとえば家族全員が共有することが必要です。

今回、一般的な繁殖記録台帳を利用しやすく工夫されている例、そして、個々の牛の情報を群管理に生かすため、自作の繁殖管理ボードを活用されている例をご紹介します。

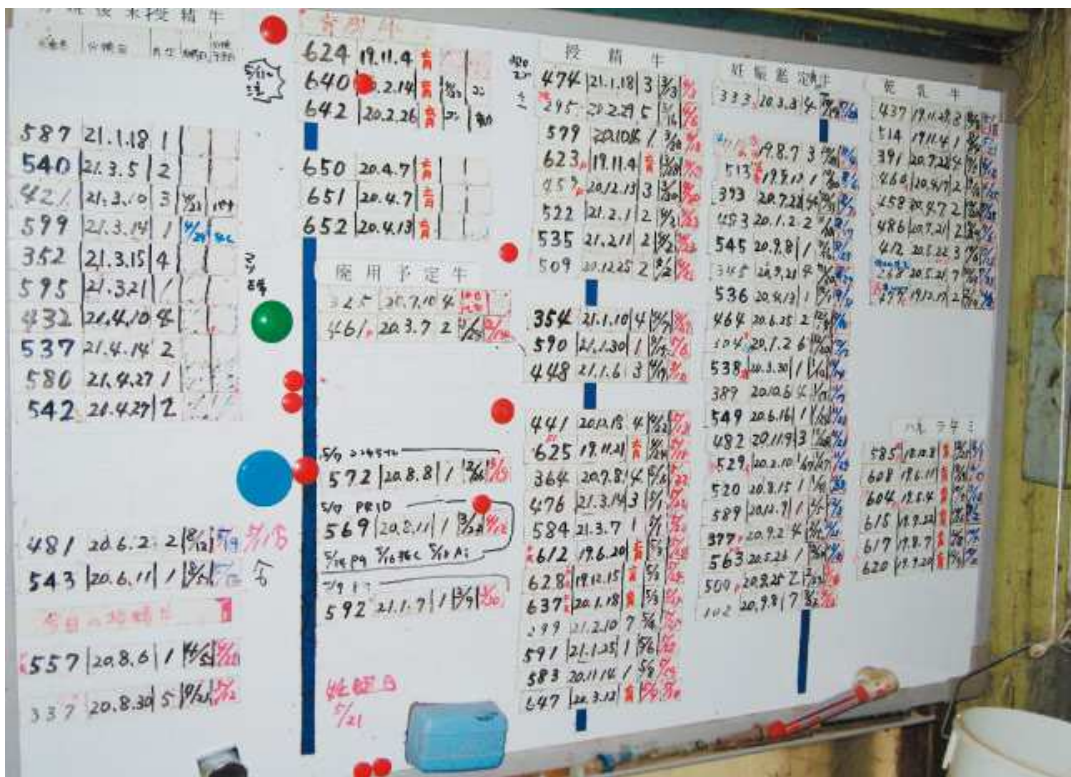


## 例1 版直台帳に「インデックス」を貼って、牛を探しやすくしよう

繁殖管理の基本となるのは、分娩、授精、治療、妊娠などの情報が書き込まれている繁殖台帳です。頭数が増えると、目的の牛を探すのが大変になります。そこで台帳にインデックスを貼って整理されている例です。



## 例2 「ホワイトボード」と「マグネットシート」で繁殖ボードを作成



個々の牛の情報を繁殖管理台帳に整理することに加え、それらの情報をすぐ分かる方法でまとめ、牛群全体で管理する手段が必要です。

上の写真は、ホームセンターで売っているホワイトボードに、100円ショップにあるマグネットシートで作った牛ごとのシートを貼って管理されています。分娩後未授精、授精中の牛、妊娠鑑定済み、乾乳牛など、牛の状態によ

りグループ分けして管理されています。日々の作業中、必ず目にするところにこのボードを設置することで、家族みんなが注意すべき牛を把握できることも利点です。



個体ID	分娩月日	産次数	授精月日	次の発情予定日
625	17.11.21			
624	17.11.4			
640	20.2.14			
642	20.2.26			
592	21.1.7	1	3/9	3/30
474	21.1.18	3	3/3	4/3
591	21.1.25	1	3/16	4/6
PR 295	20.2.29	5	3/16	4/6
569	20.8.11	1	3/22	4/12

牛ごとのシートには個体ID、分娩月日、産次数、授精月日、次の発情予定日などを書いておき、注意して発情観察する牛を特定しやすくされています。